

によど川

仁淀川町広報

2010

3月号

伝統の秋葉まつり

町オリジナル切手発売

町人事行政の運営等の状況

集落見聞録（柚ノ木谷）

山里に受け継がれる伝統と心

秋葉まつり



2月11日 土佐の三大祭りにも数えられる伝統の「秋葉神社大祭」が別枝で行われ、あいにくの悪天候にも関わらず、県内外から一万人を超える参拝者や観光客が訪れました。

年明け早々から本格的なならし(練習)を始め、この日のために地元の方が様々な準備をしてきました。朝九時、練りの行列が岩屋神社に集合した時には「何十年も秋葉まつりに携わってきたけどこんな天気は初めて」と嘆く声もあちこちで聞かれましたが、練りが始まると全員が凛と引き締まった表情へと一変しました。

霧がたちこめる山道を、まつりの総指揮役である鼻高を先頭に、みこしを中心とする神幸行列、踊りの奉納組(今年は沢渡、霧之窪、本村の順)が続ぎ、総勢二百人の練り行列が、市川家、法泉寺、中越家の順路で秋葉神社へと向かいました。

雨足が強まった午後、秋葉神社に到着。左右に大きく揺すられ「キョウサーキョウサー」の掛け声とともに勇壮に練り進む「荒神輿」に歓声がわきました。また雨に濡れて衣装や鳥毛も重さを増す中、気合いのこもった

「鳥毛ひねり」や、子どもたちが奉納した「太刀踊り」に惜しみない拍手が送られました。

町内から初めて訪れたという男性は「本当に良かった。自分の地元の良いところをもっと知らんと。来年もきつと来ます」と強い感銘を受けた様子でした。

「秋葉まつり」は、伝統を守る地元住民と、郷土を愛する旧仁淀村出身者の心を結んでいます。そして今年で町村合併五周年を迎える「仁淀川町」の象徴として町民の輪を広げ、今後も守り受け継がれていきます。



雨天でも行列ができるほど盛況だった特産品販売所(写真は「えんこ蔵」売店)



まつりを彩った役者たち

